

日本では森林が国土の7割を占めていますが、その森林の4割は人が木を使うために植林した人工林です。現在、林業の衰退からその多くが管理放棄され、間伐(木の間引き)の遅れが問題となっています。間伐をしないことで森の中が暗くなってしまい、植物が育たなくなり、生き物がいなくなってしまう。また、雨が降ると土が流れ、保水力が落ち、土砂災害が起きやすくなります。人は木を使うために森を利用しますが、森への負担は減らしていくべきだと思います。このような人工林が管理されなくなった状態をどうにかしたい!という思いから「森と人との共助共生社会を目指す」を活動理念とし、Forest Nova☆は生まれ、活動しています。

現在、Forest Nova☆は、「森林問題をなんとかしたい」、「森について学びたい」など、さまざまな思い、考えの人たち全員で活動したいという思いから、大学や地域に縛られることのない“学生団体”という大学生ならだれでも入ることのできるサークルという方針をとっています。

森づくり



Forest Nova☆は神奈川県相模湖で1haの森を借り、生き物が多様な樹齢が100年の森を目指して自分たちで施業計画を立てて間伐や植生調査、経路づくりなどの森林整備を行っています。また、活動している森に学生を呼び、共に森林整備を行ったり、勉強会を行ったりする中で現場での活動を伝えています。

実際に森の中で活動することで実体験をもとに人に伝えたり、森に様々な考

え方の人たちが学びに来ることができます。

啓発

森林整備のほかにも、各地で啓発活動を行っていますが、身近に森がある人となない人では森に対しての捉え方が違うと考え、身近に森のない都市の人と活動フィールドのある相模湖の地域の人へ違ったアプローチをとっています。

都市

森への距離が遠い人への啓発活動



都市部などの森からの距離が遠い人たちに向けては、紙芝居などを使い、森の現状や森の大切さ、国産材を使うことで日本の森が整備されていき、良くなっていく、つまり国産材を使ってほしいということを多くの人へ伝えています。

また、紙芝居にプラスして、その紙芝居をみて“何が問題なのか・何をしなくちゃいけないのか”などの自分が思ったこと、感じたこと、知ったことな

どを紙に書いてもらうという試みなどを実施しています。



同時に森林整備の際に伐った木を加工し、木の時計や木のストラップなどをつくるワークショップを通して製品の販売や木工体験を行っています。これらを通して木の良さを感じてもらったり、国産材を買う、第一歩のきっかけを提供しています。

そして、このときに得た資金は自分たちの活動費になります。このように森林整備による材の搬出、間伐材の加工、イベントで

の販売を行うことで、またそのお金を森林整備に充てることができるという、継続的な森づくりを行っています。

また、間伐材を利用したイベントや、他大学、他団体とコラボして1つの企画を作ったりするときに私たちの木を使用してもらうなど、私たちの木が様々な場所で発信源となっています。

地域

地域との交流

相模湖地域では10年以上前から森に対して活動している団体もありますが、これは東京の人たちで、地域の人たちが森づくりに関わることはあまりありませんでした。私たちは、地域の人にも、ぜひ森づくりへ関わってもらいたいと考えており、地域の中でも活動をし

ています。

数年前に参加したお祭のお手伝いから、地域の方との交流が生まれました。これをきっかけに、地域のお祭りで地域の木を活かしたワークショップを出展することができました。さらに地域内での朝市で私たちの製品を出品できることになりました。地域の方に木を売ってもらうことで、間接的に森づくりに関わってもらえてきています。



環境教育

子供たちに対しては、小学校で自ら発見をしてその中から学ぶ、ということを重視し、地域の森が抱える問題をテーマに授業をしています。生き物や植物、土や水、地域の自然などを観察し、発見することの楽しさを感じることで身近なものへの探究心を持ってもらいたいと考えています。自分と周りの自然とのつながりとは、地域の環境(森)と自分がどのように関わっているか、ということです。

しかし、森林問題から教えたり、森の機能に着目して森を守ろう！と提示するのではなく、せっかく森が近くにあるので「森」に対しての興味を持ってもらいたいですし、森を知り、興味を持つことで初めて問題意識が生まれると思います。そこで、森林問題からではなく、そもそも森ってどういうところなんだろう？ということ、人と森の関わりの面から伝えるところを今回の主なテーマとして扱います。

森林に手を入れるとはどういうことかを体験を通して伝え、管理をしなくなったことによる変化を教えて何が問題かを考えてもらうところまで行います。

人工林についてそれぞれどのような環境であるかを体験し、それはどのように人が維持しているのか、手を入れなくなったときに何が起きるかを伝え、森林の抱える問題とはなんだろう？と考えてもらいます。最後に自分の一番興味のある「森に関しての問題」を見つけてもらい、授業後にはその問題に対して自分にもできることがあるだろうか？と考えてもらい、森のために出来ることを一緒に実行しています。具体的には子供たちが実際に木を伐って、「たくさんの人に森に来てもらいたい」と、ベンチやブランコ、生き物を紹介する看板を作りました。

まとめ

身の回りに森がないからといって、森に対して何もできないわけではありません。そんな状況の人でも例えば自分たちも森で森林整備に行ってみる、木材でできた製品を買う際は

国産材、間伐材を選択する、など考えれば選択肢は色々あります。

都市部での活動を通して、森の現状を伝えたりすることで、これから自分たちが森に対して何を行っていくのかを宣言してもらえたり、伝えた内容に共感してもらって、これから国産材、間伐材を選んで買っていきその第一歩として、出品している木の時計や、木のストラップを買ってもらえるようになりました。

そして、現在の林業は助成金なしでは成り立たない状況なのですが、Forest Nova☆は助成金をもらうことなく活動することで、森の管理がなされていないという現状を打破できると考えており、都市部の人々に木工製品を買ってもらうことで、そのお金を活動資金に充て、活動を継続することができています。

地域に関しては、環境教育やお祭りをはじめとした普段のかかわりの中で少しずつForest Nova☆や森に興味をもってもらうことができ、活動に参加してくれる人ができました、Forest Nova☆が木工製品を売る際は場所を提供してもらえるようになったり、地域の木を自分たちで売ってくれたりするなど、少しずつ地域の人と森との距離が縮まってきています。

また、Forest Nova☆の卒業生も大学生時代の経験を生かした職業につき、日本の森をよくするために動いています。

こうした活動を続けてきたことで、都市と地域における木材の循環のサイクル、森の中の木や生態系のサイクルが動き始めてきています。